

第4・5学年 複式国語科学習指導案

日時 平成17年 9月30日(金) 5校時
児童 第4学年 男子3名 女子5名 計8名
第5学年 男子7名 女子1名 計8名
指導者 高橋 聡子 サポート 山口 将和

1 単元名

4年 段落のつながりを考えよう

5年 要旨をとらえよう

教材名

4年 アップとルーズで伝える

中谷 日出
光村図書4年下

5年 ニュース番組作りの現場から

清水 建宇
光村図書5年下

2 単元について

4年生は、これまでに「かむことの力」の学習において、キーワードや指示語に着目して、段落の要点をとらえたり、接続語に気をつけて文のつながりを考えて読んだりする学習をしてきた。また、「段落」と「段落」をつなげたまとまりをとらえ、そのまとまりにはどんなことが書かれてあるのか、つながりはどのようになっているのかを考える学習も少しずつできるようになってきている。国語の学習に対しては意欲的で、読書好きな子どもが多い。しかし、その反面、キーワードや指示語、接続語を自分の力で見つけられなかったり、「段落」のとらえが曖昧で、一つのまとまりとしてとらえることができなかつたりする子どもみられる。ノートのまとめ方については、支援が必要な子どもが多く、一人学び・学び合いにおいても、まだ、自分から進んで取り組めるまでに至っていない。

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」ことである。

本単元は、段落と段落のつながりという文章構成を学習することによって、段落がまとまりを形成し、そのまとまりがさらにつながって文章全体になっていることを学ぶことができる単元である。また、本単元で扱う教材文は、「初め」(話題提示)、「中」(説明)、「終わり」(総括)というわかりやすい構成になっており、文章構成をしっかりとらえさせることのできる教材である。また、本教材は、「初め」「中」のまとまりがどちらも「対比」「まとめ」という関係になっており、そのつながりがわかりやすく、繰り返し指導に適した教材である。さらに、この教材は、子どもが最もよく目にしているメディアであるテレビの映像技法について述べられており、子どもにとって身近で、実際に確かめることも容易な内容であることから、興味・関心

5年生は、これまでの学習において、段落ごとの要点をとらえたり、段落相互の関係からその構成を考えたりする学習をしてきた。「サクラソウとトラマルハナバチ」の学習においては、まとまりごとの要点をとらえ、それらの要点がまとまって要旨になっていることを学び、要旨というものを少しずつとらえることができるようになってきている。説明的文章に対しての関心・意欲は高く、いろいろなことがわかって楽しいと感じている子どもが多い。しかし、中にはまとまりごとの要点をまとめることができず、要旨をとらえることを苦手としている子どもも見られる。また、間違ふことを気にして、積極的に自分の考えを発表したり、自信をもって学習を進めたりすることができない子どもも見られる。一人学び・学び合いの仕方は少しずつ身についてきている。

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容理解や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。

本単元は、文章全体の構成をつかむことによって、文章の要旨をとらえ筆者の主張を読み取ることができる単元である。また、本単元で扱う教材文「ニュース番組作りの現場から」は、「話題提示 - 過程 - 総括」というわかりやすい文章構成になっており、特に総括の段落が要旨に近い内容を述べていることから、より要旨をとらえやすい教材となっている。また、過程の部分は、時間進行に沿って順に述べられており、キーワードをとらえながら、じっくりと読みを進めることのできる教材である。さらに、子どもにとってテレビのニュース番組は、身近でイメージがとらえやすく、その製作の現場についての内容は、興味・関心をもって学習に取り組みると考える。そして、この教材文を通して、番組作りにこめられている、発信者の意図

を抱きやすいものであると考える。この機会に、メディアから受け取っている情報が、一定の価値判断・意図に基づいて取舍選択されたものであることにも気づかせたい。

指導にあたっては、「段落のつながりを考えながら読む」ことを重点指導内容と考え、つながりをしっかりとらえさせるために、「接続語」の学習を先に行なうことによって、より段落のつながりがわかりやすくなるようにしたい。また、キーワードや接続語、文末表現に着目してサイドラインを引く活動や、一人学びで学んだことをペアやグループで確かめ合う時間を確保し、子どもが自分の力で要点をまとめるような活動を繰り返し取り入れていくことによって、より確かな読みの力をつけさせたい。個人カルテを活用し、配慮が必要な子どもについて把握し、サポートとともに支援をしていく。導入の段階では、題名に着目させたり、実際のテレビの画像を見せたりすることによって、教材文への興味・関心を喚起させ、学習の最後には、日常から「対比」になるものを探し、「対比」「まとめ」のつながりになるような短作文作りをし、読みを広げていきたい。

や願いを知ることはとても大切な学習であると考え。

指導にあたっては、「キーワードを押さえながら、要旨をとらえる」ことを重点指導内容と考え指導を進める。番組作りの過程を、時間の流れやキーワードに基づいて繰り返し読み取らせることによって、文章を読みとる力を育てていきたい。また、最後の段落が文章全体を総括する要旨に近い内容の段落であることに気づかせ、要旨をとらえることが苦手な子どもにも、最後の段落のキーワードを手がかりにして、意欲的に要旨をとらえさせるようにしたい。そして、要旨をとらえることによって、筆者の主張が伝わってくるということを感じさせたい。一人学び・学び合いがスムーズにできるように学習の流れを一人一人に把握させ、個人カルテを活用し、配慮が必要な子どもについて把握をし、サポートとともに支援をしていく。導入の段階では、題名に着目させたり、実際のニュースと特集の違いを見せることによって、教材文への興味・関心を喚起させたい。学習の最後には、同じような構成になっている文章を自分の力で要旨にまとめる練習をし、この学習をより確かなものにしていきたい。

3 研究の仮説とのかかわり

<ul style="list-style-type: none"> ・段落のつながりを意識させながら読み取りをさせる。 (仮説1 指導内容を重点化した繰り返し指導) ・接続語や文末表現に気をつけて読み取りをさせる。 (仮説1 指導内容を重点化した繰り返し指導) ・段落ごとのキーワードに着目させ要点をとらえさせる。 (仮説2 キーワードをもとに読み取っていく指導の工夫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落やまとまりの要点をとらえ、文章全体の構成を考えさせながら読み取りをさせる。 (仮説1 指導内容を重点化した繰り返し指導) ・キーワードや時間の流れを表す言葉に着目させ、要旨をとらえさせる。 (仮説2 キーワードをもとに読み取っていく指導の工夫)
---	--

4 単元の目標

国語への関心・意欲・態度	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報を伝えることに興味をもち、文章全体を構造的にみようとする。 (ア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュース番組作りについて興味をもち、文章構成や要旨を進んでとらえようとする。 (ア)
読むこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読む。 (イ) ・段落の中心となる文や語をとらえて、要点にまとめる。 (オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを手がかりにして、内容を的確におさえ、要旨をとらえる。 (イ) ・時間の流れにしたがって、過程を読みとる。 (オ)
言語事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体について段落の役割を理解する。 (オ(イ)) ・文と文の意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。 (オ(ウ)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成について理解することができる。 (オ(ア))

5 学習計画 第4学年(12時間)

段階	学習活動	時	評価規準
つ か む 4	1 文と文のつながりについて学習する。 「だから」「しかし」の働きと使い方を理解する。 接続語に表れる気持ちを考える。	1 1	・「だから」「しかし」を使って文をつなげている。(発言・ノート)【言】 ・気持ちを考えて接続語を選んでいる。(発言・ノート)【言】
	2 教材文を読み学習の見通しをもつ。 テレビの映像を見たり、題名を読んだりして、アップとルーズについて知っていることを発表し合う。 全文を通読して感想をもち、まとまりに分け、学習の見通しをもつ。 ・全文が8段落から構成されていること、大きく3つのまとまりで話が展開されていることを確かめる。 ・学習計画を立てる。	1 1	・テレビの映像や題名をから、気がついたことや知っていることを発表している。(発言・ノート)【関】 ・初めて知ったことやもっと知りたいことをノートに書いている。(発表・ノート)【関】 ・8つの形式段落に分け、全体を3つのまとまりに分けている。(ノート)【読】 ・学習の見通しをもっている。(発言・ノート)【読】
	3 段落ごとにキーワードや中心となる文を手がかりにして読む。 アップとルーズの内容を読み取る。 1・2段落と3段落のつながりを考える。 アップとルーズの長所・短所を読みとる。(本時)	1 1 1	・アップ・ルーズとは何かをノートに書いている。(ノート)【読】 ・対比関係・まとめというつながりをノートに書いている。(読・ノート)【読】
	4・5段落と6段落のつながりを考え、まとめを読みとる。	1	・伝えられること・伝えられないことに分けてノートに書いている。(サイドライン・読・ノート)【読】 ・対比関係・まとめというつながりをノートに書いている。(読・ノート)【読】 ・筆者の伝えたいことにサイドラインを引きノートに書いている。(サイドライン・読・ノート)【読】
ま と め る 2	4 接続語や要点を手がかりにして段落と段落の続き方をまとめる。 読み取ってきたことを確かめ大きなまとまりに小見出しをつける。 段落のつながりを考え、文章全体の構成を考える。	1 1	・それぞれのまとまりに小見出しをつけている。(サイドライン・読・ノート)【読】 ・接続語や要点を確認し、段落と段落のつながりをノートに書いている。(サイドライン・読・ノート)【読】
	5 接続語を使って対比になる文を作り、5年生へ伝える。 身近なものから、対比になる素材を探し、文にまとめる。 5年生に伝える。	1 1	・既習を生かして、対比の文を書いている。(ワークシート)【読】 ・5年生にわかるように発表している。(発表)【読】

第5学年(12時間)

段階	学習活動	時	評価規準
つ か む 2	1 教材文を読み学習の見通しをもつ。 ・ニュースと特集の番組をみて気がついたことを発表し合う。 ・題名、全文を読み、感想をもつ。 まとまりに分け、学習の見通しをもつ。 ・12の段落を整理し、文章構成を考えながら3つのまとまりに分け小見出しをつける。 ・学習の見通しをもつ。	1 1	・映像を見て、違いや気がついたことなど自分の考えをもっている。(発言・ノート)【関】 ・初めてしたことや興味をもったことについて発表しようとしている。(発表・ノート)【関】 ・12の段落を構成を考えながら3つのまとまりに分けている。(ノート)【読】 ・小見出しを付け、学習の見通しをもっている。(発言・ノート)【読】
	2 段落やまとまりごとに要点をとらえながら読みとる。 話題提示の文を読みとる。 話題選び・企画会議1について読みとる。 取材・分かったことを読みとる。 企画会議2・撮影について読み取る。 編集・原稿について読み取る。(本時) 放送・筆者のまとめを読み取る。	1 1 1 1 1 1	・話題を読み取り、特集とはなにかをまとめて書いている。(サイドライン・ノート)【読】 ・おどろきや疑問にサイドラインを引き、それが話題になることをまとめている。(サイドライン・読・ノート)【読】 ・取材でわかったことをノートにまとめて書いている。(サイドライン・読・ノート)【読】 ・分かりやすくするための撮影の工夫をまとめて書いている。(サイドライン・読・ノート)【読】 ・どのように編集されるか・放送用原稿の工夫は何かにサイドラインを引き、ノートにまとめている。(サイドライン・読・ノート)【読】 ・番組作りの過程を確認し、放送で伝えなかったことや願いをノートに書いている。(サイドライン・読・ノート)【読】
ま と め る 2	3 段落相互の関係をまとめ、要旨をとらえる。 読み取ってきたことを確かめ文章全体の構成をとらえ、自分なりに要旨をまとめる。 友だちと比べ合いよりよい要旨になるように話し合いまとめる。	1 1	・まとまりごとの要点やキーワードをふり返し、要旨を書いている。(ノート)【読】 ・友だちと比べあい要旨をよりよいものにしてしようとしている。(読・ノート)【読】 ・教材文の要旨をまとめている。(ノート)【読】
	4 資料を使って要旨をとらえ、4年生に伝える。 資料の要旨を読み取り、筆者の考えをまとめる。 4年生に伝える。	1 1	・資料を使って要旨をまとめ、筆者の考えを書いている。(ノート)【読】 ・4年生にわかるように発表している。(発表)【読】

<p>・一人学びの仕方を確認する。</p> <p>段落を微音読し，キーワード・接続語・文末表現にサイドラインを引かせ，ノートにまとめさせる。(仮説1・2)</p> <p>・隣の友だちと自由に意見を交流させる。</p> <p>・自信をもって発表させる。</p> <p>具体の評価規準 A 分けて書くことができ，と段落が前時に学習した対比の関係になっていることに気づくことができる。 B アップとルーズの伝えられること・伝えられないことを分けて書くことができる。 C への支援 「分かります」「分かりません」などの言葉を一緒に探し，ノートに視写をさせる。</p> <p>・学習したことをまとめさせる。 ・図式化して，ノートに書かせる。</p> <p>前時のつながり方を振り返らせ，今日のつながり方を比べさせる。(仮説1)</p>	<p>うつされていない多くの部分</p> <p>4 ルーズの伝えられること伝えられないことを読み取る。 (1) 同じようにの段落を自分の力でまとめる。(一人学び) (2) ペアとまとめたものを確認する。(学び合い) (3) まとめたものを発表し，確かめる。</p> <p>伝えられること 広いはんいの様子 伝えられないこと 各選手の顔つきや視線 それから感じられる気持ち</p> <p>5 キーワードをもとに課題のまとめをし，段落のつながり方を考える。 アップでは細かい部分の様子が伝えられるが走っている選手以外のうつされていない多くの部分は伝えられない。 ルーズでは広い範囲の様子が伝えられるが，各選手の顔つきや視線，それから感じられる気持ちは伝えられない。</p> <p>6 学習内容を振り返りながらまとめの微音読をする。</p>	<p>か</p> <p>め</p> <p>る</p>	<p>一文は短くする。 ひと目で分かる地図や表。</p> <p>(3) まとめたものを確認する。</p> <p>5 何が分かるように編集し，原稿にはどのような工夫があるのか要点にまとめる。</p> <p>訓練がなぜ実現したか，訓練に参加した住民はどう思ったかの答えが分かるように編集し，原稿には，耳で聞いてわかりやすい言葉を選び，一文を短くし，ひと目で分かるような工夫がされている。</p> <p>6 段落の全体における構成を考える。</p> <p>7 まとめを微音読をする。</p> <p>8 要点と，段落の位置づけを確認する。</p>	<p>・自信をもって発表させる。</p> <p>キーワードに着目させ，要点をまとめさせる。(仮説2)</p> <p>・編集は教師とともに，放送原稿は自分の力でまとめる。</p> <p>具体の評価規準 A 編集・放送原稿のキーワード使って，自分の力でノートに要点を書いている。 B 編集のキーワード2つと放送原稿の工夫のキーワード3つをノートに書き出している。 C への支援 キーワードを見つけるために中心という言葉や～ます。という文末に着目させる。</p> <p>・既習を生かし，今日の段落が文章全体においてどこに位置づけられるか考えさせる。 ・早くできた児童にはまとめの微音読をさせる。</p> <p>段落は，中のまとまりで放送につながる最後の過程のとしてとらえさせ，次時につなげる。(仮説1)</p>
<p>・ノートを見ながら，進んで発表させる。 ・ノートに振り返りを書かせ評価させる。 ・友だちのがんばりにも目をむけさせる。</p> <p>・次時は，の段落を学習し，今日の段落とどうつながっているか考えていくことを伝える。</p>	<p>7 本時の学習のまとめをする。 (1) 学習課題についてのまとめを発表する。 (2) 自己評価・相互評価をし，発表する。</p> <p>8 次時の学習内容を確かめる。</p>	<p>ま と め る</p> <p>10 分</p>	<p>9 本時の学習のまとめをする。 (1) 学習課題についてのまとめを発表する。 (2) 自己評価・相互評価をし，発表する。</p> <p>10 次時の学習内容を確かめる。</p>	<p>・自信をもって発表させる。 ・ノートに振り返りを書かせ評価させる。 ・友だちのがんばりにも目をむけさせる。</p> <p>・次時は，今日の学習を生かして放送される過程を読み取り，最後の筆者のまとめを読み取ることを知らせる。</p>
<p>次時の活動</p>				
<p>段落を読み取り，段落とのつながりを考える</p> <p>・接続語に着目する。(仮説1)</p> <p>・キーワードにサイドラインを引き，要点をまとめる。(仮説2)</p> <p>・段落のつながりを考える。(仮説1)</p>	<p>放送・筆者のまとめについて読み取る。</p> <p>・放送の段落のキーワードをとらえる。(仮説2)</p> <p>・過程に沿って，要点をまとめる。(仮説1・2)</p> <p>・筆者のまとめをキーワードをもとにとらえる。(仮説2)</p>			

< 板書計画 >

正面黒板 五年

<p>ニューズ番組 作りの現場から 清水 建宇 撮影の過程</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;">話題</div>	<p>課題 編集と原稿を書く過 程を読み取ろう。</p>	<p>編集の過程 何が分かる ように</p> <hr/> <p>何を中心として 編集したか</p> <p>前半 噴火の歴史 観測結果</p> <p>後半 参加した人の 語っている声</p>	<p>・訓練がなぜ 実現したか。</p> <p>・住民は どう思ったか。</p> <p>原稿を書く過程</p> <p>・耳で聞いて分かりやすい言葉。 ・一文は短くする。 ・ひと目で分かる地図や表。</p> <p>訓練がなぜ実現したか、訓 練に参加した住民はどう思っ たかの答えが分かるように編 と集し、原稿には、耳で聞いて わかりやすい言葉を選び、一 ま文を短くし、ひと目で分かる ような地図や表などの工夫が されている。</p>	<p>の全文視写</p>	<p>放送の過程</p>
--	--------------------------------------	--	---	--------------	--------------

側面黒板 四年

<p>アップとルーズで 伝える 中谷 日出</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;">話題</div>	<p>課題 アップとルーズの伝えられること と伝えられないことを読み取る う。</p>	<p>アップ</p> <p>伝えられること</p> <hr/> <p>細かい部分の様子 走っている選手以 外のうつされてい ない多くの部分</p> <p>反対のこと</p>	<p>ルーズ</p> <p>伝えられること</p> <hr/> <p>広い範囲の様子</p> <p>各選手の顔つきや 視線、それから感 じられる気持ち</p> <p>アップでは細かい部分の様子が伝 えられるが走っている選手以外の うつされていない多くの部分は伝 えられない。</p> <p>ルーズでは広い範囲の様子が伝 えられるが、各選手の顔つきや視 線、それから感じられる気持ちは 伝えられない。</p>	<p>の全文視写</p>	<p>アップとルーズにはそれぞれ伝えら れることと伝えられないことがある。</p>
--	---	--	---	--------------	---

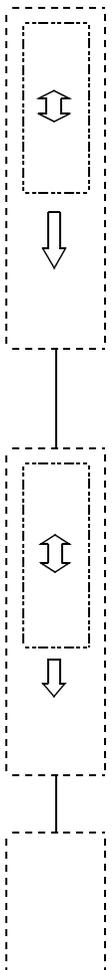
第四学年 教材分析表

単元名 段落のつながりを考えよう
 教材名 アップとルーズで伝える (説明文) 中谷 日出

要旨 テレビの画面は、広い範囲をつつす「ルーズ」ある部分を大きくつつす「アップ」のとり方がある。アップでは、選手の表情や様子などがよく伝わるが、映っていない部分は伝わらない。また、ルーズでは、観客席や選手とおうえんした人の一体感など広い範囲の様子が伝わるが選手の顔つきや視線気持ちなどは伝わらない。そこで、テレビは目的に応じて、切りかえながら放送をしている。写真にも、アップとルーズがあり、新聞ではそれを組み合わせたり、目的に応じて選んだりして使っている。どちらも、受け手が知りたいこと、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップやルーズを決めたり選んだりしている。

段落	小見出し 形式段落	要点	読み取りに必要な キーワード	重点化した指導内容 に關係する言語事項
説明	話題提示	アップでは細かい部分の様子が伝えられるが走っている選手以外のうつされていない多くの部分は伝えられない。ルーズでは広い範囲の様子が伝えられるが、各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ちは伝えられない。アップとルーズにはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあり、目的に応じて切りかえて放送している。	アップ	分かります しかし このとき 〜でしょう 分かります 分かります でも 分かりません このように
まとめ	アップとルーズの使い分け	写真にもアップとルーズはあり、新聞ではアップとルーズを組み合わせたリ、目的に合うものを選んだりして使っている。テレビでも新聞でも、受け手が知りたいこと、送り手が伝えたいことを考えアップとルーズを決めたり、とつたものを選んだりしている。	アップとルーズ	分かります 〜でも〜でも
		アップとルーズはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあり、目的に応じて切りかえて放送している。	アップとルーズ	分かります 〜でも〜でも
		アップとルーズはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあり、目的に応じて切りかえて放送している。	アップとルーズ	分かります 〜でも〜でも

《文章構成》

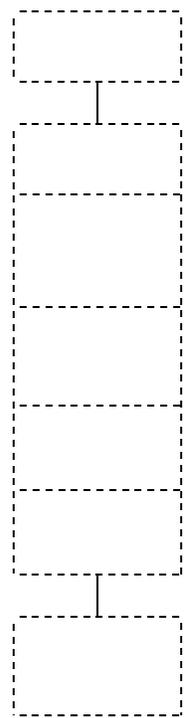


単元名 要旨をとらえよう
 教材名 ニュース番組作りの現場から (説明文) 清水 建宇

要旨 番組作りの出発点は、報道スタッフが驚きや疑問を抱くことである。その驚きや疑問を的確に伝えるためには、綿密な取材が必要であるとともに、取材を通して見えてきた答えを分かりやすく伝えるために編集をし、伝えたいことの中心を明らかにしていくことが大切である。そして、制作者は、どの過程においても「伝えたい」「分かっている」という願いをこめて、番組を作っている。

落 段	小見出し 形式段落	要 点	読み取りに必要な キーワード	重点化した指導内容 に係る言語事項
話題提示	特集は、どのようなかの	大勢の人の伝えられるものをニュースのいい早い伝えられるが、多くの人に関心を持ちそうな話題、関心を持ってもらいたい話題は、時間をかけ上げていく。取材をし、特集として取り上げる。その過程をみてみよう。	ニュース 関心 時間をかける 取材 過程	その日 ここでは
話題選び		デスクは、訓練がはじめてであることにおどろき、それは多くの人に関心を呼ぶ話題だと考え、特集として伝えることにした。	報道スタッフ 内容・伝え方 デスク おどろき	そして
企画会議 1 取材		会議をし、放送の十六日前に、疑問を中心に取り決めた。取材が大切なのは正確さだ。住民も危機感がないため、訓練に積極的ではなく、観光が重要な産業であることから、県も訓練はふみ切れない。富士山は、現在も活動中の火山であることから、県は訓練の大切さを学んだ。この八日前には、再び会議を開き内容を確かめ、ビデオ映像として、だれにインタビューするかと決めた。映像は、目で見てわかるように工夫し、画面には富士山が映るようになり、住民の声を聞いた。	取材 ディレクター アナウンサー 疑問 十六日前 正確さ 危機感 観光 ふみ切れない 活動の大切さ 訓練	さつそく なぜののか。 ここまでの それで では なぜでしょうか
企画会議 2 撮影		二日前にさつえいが終わり、訓練がなぜ実現したかの訓練に参加した住民はどう思ったかの答えが分かるように編集した。同時に、全体の構成を考え、耳で聞いてわかりやすい言葉を選び、一文を短くし、ひと目でみてわかるような、工夫した放送用原稿を書く。	伝える ビデオ映像 だれに・どこを 八日前 目で見て分かる 富士山が映る 住民の声	こうした ため
放送		いよいよ特集が放送され、取材を重ねてきて最も伝えられた。取材を重ねてきて最も伝えられた。	結びました 最も伝えられた こと	いよいよ
まとめ 組作り 切なことに大		おどろきや疑問は、番組をつくるのに大切な出発点であり、見ている人知らせるねうちがあることを選び、人知つて考えてほしいという願いをこめてニュース番組が作られている。	おどろきや疑問 取材 伝えたいこと 撮影 知らせるねうちがあること 知つて考えてほしい いと願	こうした やがて それを また

《文章構成》



名前

めざす子ども像	段落相互の関係を考えながら中心的事柄を読みとり、要点にまとめることができる。						
単元の重点指導内容	段落のつながりを考えながら読む						
実態	かむことの力 単元テスト /100 ・接続後や指示語を見つける ・段落に分けることができる			<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりを見つけることができる ・キーワードを見つけることができる ・要点をまとめることができる 			
初発の感想							
毎時間の評価基準	日時	段落のつながりについて考える	要点をとらえる	関心・意欲	自己評価	備考	
「だから」「しかし」を使って文をつなげることができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
気持ちを考え接続語を選ぶことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
知っていることやもっと知りたいことを発表することができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
まとまりに分け、学習の見通しをもつことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
アップ・ルーズとは何かを書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
対比関係・まとめというつながりがわかる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
伝えられること・伝えられないことに分けてノートに書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
対比関係・まとめというつながりがわかる。筆者の伝えたいことにサイドラインを引きノートに書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
それぞれのまとまりに小見出しをつけることができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
接続語や要点を確認し、段落と段落のつながりをノートに書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
既習を生かして、対比の文に書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
5年生にわかるように発表することができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1				
単元の終了（最終の感想）	<ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズで伝える単元テスト / 100点 ・情報について興味をもち、進んで調べようとしている ・段落と段落のつながりに気をつけながら読もうとしている。 				はい	いいえ	
					はい	いいえ	

名前

めざす子ども像	読む目的に応じて内容を的確に押さえながら、要旨をとらえることができる。					
単元の重点指導内容	キーワードを押さえながら，要旨をとらえる					
実態	・サクソソとトラマルハナバチ単元テスト /100	・キーワードを見つけることができる ・要点をまとめることができる ・要旨の大体をとらえることができる				
初発の感想						
毎時間の評価基準	日時	文章の構成について考える	要旨(要点)をとらえる	関心・意欲	自己評価	備考
自分の考えを持つことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
学習の見通しをもつことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
話題を読み取り，特集とはなにかをまとめて書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
おどろきや疑問にサイドラインを引き，ノートにまとめることができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
取材でわかったことをノートにまとめることができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
分かりやすくするための撮影の工夫をまとめて書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
どのように編集されるか・放送用原稿の工夫は何かにサイドラインを引き，ノートにまとめることができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
番組作りの過程を確認し，放送で伝えなかったことや願いをノートに書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
まとめごとの要点やキーワードをふり返り，要旨を書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
友だちと比べあよりよいものにしてやうとすることができる。 A B C 教材文の要旨をまとめることができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
資料を使って要旨をまとめ，筆者の考えを書くことができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
4年生にわかるように発表することができる。 A B C	/	4 3 2 1	4 3 2 1			
単元の終了（最終の感想）	・ニュース番組作りの現場から単元テスト / 100点 ・情報について興味をもち、進んで調べようとしている ・時系列に沿って文章を読み取るようとしている。					はい いいえ はい いいえ